

トルコギキョウの低コスト冬季安定生産技術

花持ちが良く、多様な花色と花型を持つトルコギキョウは、周年需要がある切り花として、人気が高い品目です。しかし、自然開花が夏のトルコギキョウを冬に咲かせようとする、開花障害や開花遅延が発生しやすく計画生産が困難な上、暖房コストもかかるため、冬の流通量は夏の3割以下と少なく、高単価になっており、海外輸入が増えています。このため、トルコギキョウを冬季に低コストで確実に生産する技術の開発・普及が望まれていました。(独)農研機構花き研究所では、茨城県・広島県・熊本県・福岡県花卉農業協同組合と共同研究を行い、トルコギキョウの冬季安定生産技術を開発しましたので、その概要について紹介いたします。

☆ 技術の概要

1. 抽苔を開始した大苗(本葉3対)を定植することで在圃期間を大幅に短縮(約49日)できます。
2. 冬季開花の作型では、花芽分化と発達を促進する環境調節が必須です。昼温30℃、夜間10℃を目安に温度管理して生育の促進と低コスト化を両立します。さらに白熱電球による長日処理(20時間日長;定植から発蕾後8週まで)で発蕾を促進しプラスチックを軽減します。また、厳寒期の低温曇雨天日は、午前中を中心に20℃程度まで加温することで切り花のボリュームが増加します。
3. 日射量が夏の半分程度になる冬季開花の作型では季咲き(夏開花)よりも少ない基肥窒素成分量0.5kg/aとし、生育初期に重点的に追肥0.5kg/aを行うことで、プラスチックを回避しつつ2花2蕾、切り花の長さ70cmの目標品質を達成できます。

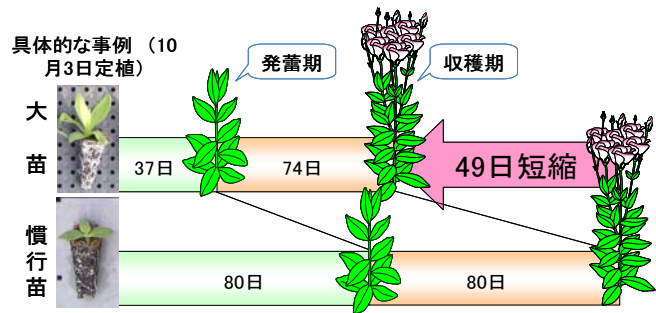


図1 大苗定植による生育促進効果

6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
○ 播種			△ 育苗開始						◎ 定植			▽ 発蕾									▨ 収穫		
種子冷蔵10℃			クーラー育苗25/15℃設定						開放または30℃換気						加温10℃設定			25℃換気			15℃設定		
									長日処理(20時間日長)														

図2 低日照地域1月出荷の作型

☆ 活用面での留意点

1. 得られた技術の詳細は、「トルコギキョウの低コスト冬季計画生産の考え方と基本マニュアル(第1版)」として纏められ、花き研究所のホームページにpdfファイルで公表されています(<http://flower.naro.affrc.go.jp/>)。
2. 本マニュアルの技術の適用に当たっては、各経営体や産地において、それぞれの圃場の立地条件などに合わせた技術体系に再構築することをお勧めします。
3. 詳しいことは、花き研究所花き研究領域(029-838-6818)へお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田 勝弘)